



弟橘比売命(小磯一紀画)

六年生(千歳)として戦時疎開の時に読んだ本の感想を、次のように述べておられます。

父が「持ってきて」くれた神話伝説の本は、私に、個々の家族以外にも、民族の共通の祖先があることを教えたという意味で、私に、この戦つこのようなものを与えてくれました。本というものは、時に子供に安定の根を与え、時にどこにでも飛んでいける翼を与えてくれるものようです。

その中で「忘れられない話」としてあ

げられましたのは、「倭建御子」が東国への遠征途中、「付き添っていた后の弟橘比売命」が、「海神のいかりを鎮めるので、皇子はその使命を遂行し飛行天皇に覆奏してほしい」と言ひ入水した時の「別れの歌」を引き、当時感銘を次のように語られています。

弟橘の言動には……天、建と任務を分かち合うような、どこか意図的なものが感じられ、弟橘の歌は……「いけにえ」という酷い運命を、進んで自らに受け入れながらも、恐らくはこれまでの人生で、最も愛と感謝に満ちた瞬間の思い出を歌っていることに、感銘という以上に、強い衝撃を受けました。……愛と犠牲という、一つのものが、私の中で最も近いものとして、むしろ、一つのものとして感じられた、不思議な経験であったと思います。

このような鏡い受けとめができたのは、特別に豊かな感性をもつ少女美智子さまだからかもしれません。しかし、私どもでも、『古事記』『日本書紀』のような歴史書があるからこそ、建国史上の悲しくも美しい物語を知ることができるのです。とはいえ、どんな名著であれ、読む機会がなければ知ることも伝えることもできません。この点に関して、美智子さまは講演の中で、父上から差し入れられた本は「今考えれば、本当によい贈り物であつたと思います。なぜなら、それから間もなく戦争が終わり、米軍の占領下に置かれた日本では、教育の方針が大幅に変わり、その後は歴史教育の中から、神話や伝説は全く削除されてしまったからです」と明確に言及しておられます。

これは重大な指摘です。しかも「戦後教育の中から……削除されてしまった」

本書の題名には、「天皇学」という過大な用語を掲げました。しかし、その内実は「天皇史」を点検するため主要な資料が現存するからです。とりわけ歴代天皇自身の手跡が相当に残っております。しかも、その多くが帝國學士院編の『宸翰英華』(図版篇・解説篇)に集成されて

### 「史は書を絶たず」

ただ、この不十分な「天皇史」でも、何とか書きえたのは、古代以来の関係史料が現存するからです。とりわけ歴代天皇自身の手跡が相当に残っております。しかも、その多くが帝國學士院編の『宸翰英華』(図版篇・解説篇)に集成されて

「史は書を絶たず」と記しています。この四字句は、漢籍に出典があり、誰か方も解釈も同様であります。二で「史不絶書」と記しています。

この四字句は、漢籍に出典があり、誰か方も解釈も同様であります。二で「史不絶書」と記しています。

史書は、周知のとおり和銅五年(七二二)大友方伯の撰した『古事記』です。この「序」に当書の成立事情を略述する中で「史不絶書」と記しています。

また、編纂された歴史書・資料集も多くあります。その最も古い現存史書は、周知のとおり和銅五年(七二二)大友方伯の撰した『古事記』です。この「序」に当書の成立事情を略述する中で「史不絶書」と記しています。

## 「天皇学」への展望

京都産業大学名誉教授 所功

「天皇学」は、日本学！新たな「天皇学」への入門講座。

もちろん、本書は『古事記』などのような不朽の名著に較ぶべくもありません。ただ、歴代の宸翰や先賢の著作などから学びたいことの一端を判り易く紹介することに努めました。それは子供にもできることであり、それが大きな意味をもつていることに気付かせてくださったのは、平成の皇后(現上皇后)陛下です。

「子供時代の読書の思い出」

二十歳代半ばで皇太子妃となられ、多くの人々から「美智子さま」と呼ばれ親しまれてきた皇肩陛下は、平成十年(一九九八)九月、IBBY(国際児童図書協)議堂ユニテリ大会用の記念講演で「子供時代の読書の思い出」と題する名スピーチをされました。この中で、昭和二十年(一九四五)、国民学校

月刊  
2024  
8  
No. 389

発行所 株式会社 藤原書店  
〒東京都新宿区早稲田穂袋町五  
〇三・三五五〇(代)  
電話 〇三・三五五〇  
FAX 〇三・三五五〇  
〒表示の価格は消費税込みの価格です。  
編集兼発行人 藤原良雄  
編集 藤原 100円

天皇学 所功

